

あ と が き

1年ぶりに故郷に帰省し、新年を迎えた。私の故郷は23万の人口を抱える市である。正月2日に郊外にある標高が300 mを少し越える山に出かけた。中腹にある神社へと初詣に向かう人々のマイカーが作る渋滞も途切れ、山頂近くの公園に着いた。市の花である躑躅が咲きそろい家族連れで賑わう春とはちがって、北風に晒されるこの時期にここまで足を伸ばす初詣の人も少なく、がらんとしている。展望台に立って眼下に広がる平野を眺めると、穏やかな冬の陽の中に照らされている故郷の市街地、所々に集落を包み込みながら郊外に広がっていく田畑、ちょっと遠慮がちに拡がる隣接する町が目映る。その中ですぐに気づくのが、場違いたるに際立つ20階建て市庁舎の出現という大きな変化。おもわず、見に行ってみようかと思う。ついでに、遠くからはわからない昔遊んだ辺りにも足を運びたくなった。

今回から編集委員として本誌の発刊作業に関わることになった私は、ちょうどこのときのように、色々な話題で構成された核データニュースという街を展望台に立って眺めるような感じです。インターネットの普及によって必要なデータはオンラインでアクセスできるようになって、将来は、毎号100ページを使って伝えている核データニュースもこの流れに乗ってメール化されるのかもしれませんが。伝える手段は何にしる、核データの街に起こる変化を周辺まで含めて紹介できるような紙面づくりに微力ながらも協力できればと思っています。

高 田

takada@omega.tokai.jaeri.go.jp

核データニュース編集委員会

中川 庸雄(委員長、原研)、井頭 政之(東工大)、喜多尾 憲助(データ工)、
柴田 恵一(原研)、高田 弘(原研)、高野 秀機(原研)、吉田 正(東芝)